

取扱説明書

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書と別冊の取扱説明書(安全上のご注意)をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。

CATV用幹線分岐増幅器(70~250MHz帯)

TBA-3003

(AGC無し)

TBA-3003A

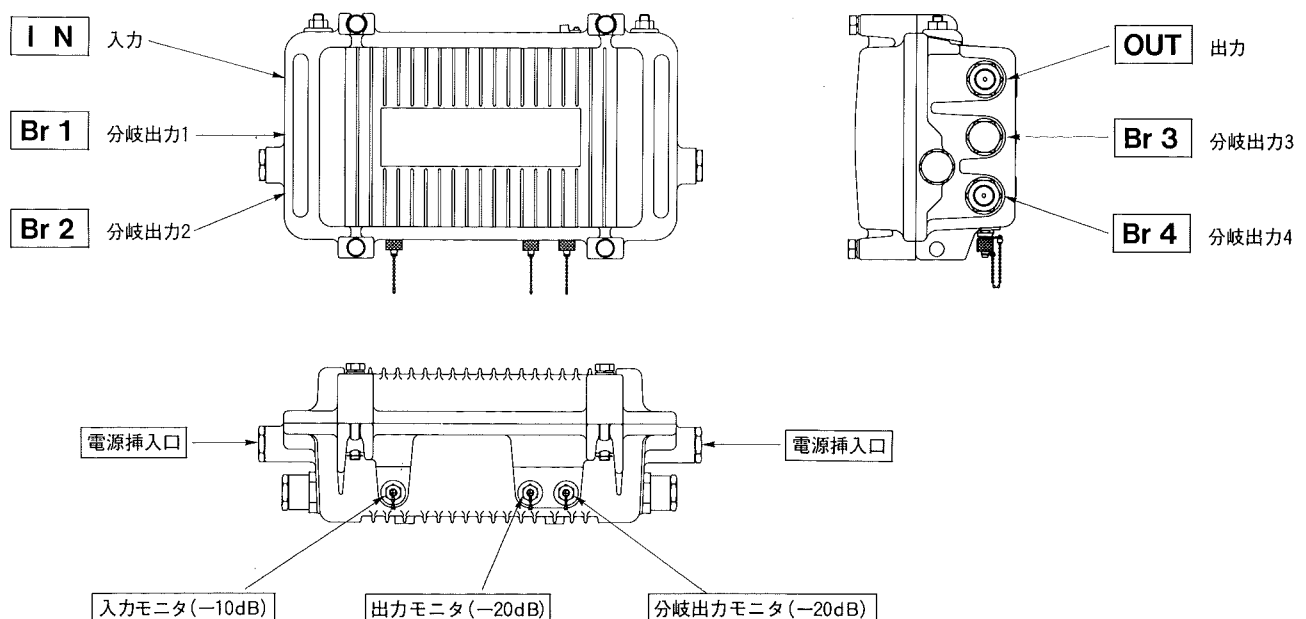
(246MHzパイロットAGC付)

●特長

- 放熱効果に優れ、しかも小形軽量のダイカストケース採用。(全高200mm)
- 電源挿入口を左右各1カ所に設け、施工に便利。
- シリコンパッキンの採用により防水は確実。
- 電磁シールドの採用により漏洩対策は万全。
- 心線ネジ止式コネクタ採用により、各端子AC30V5Aまで通電可能。
- 通電切換プラグの操作により電源パス(Br1—Br2間、Br3—Br4間)可能。(最大AC30V5A)
- LEDで入出力各端子の通電状態を確認可能。
- TV20波、PL1波の伝送が可能。
- パイロット信号が停波した時は自動的にMGCへ切り換わるバックアップ機能付。(AGC付のみ)
- 入力EQ、入力ATT、入力BON、チルト調整機能によりシステム設計が容易。

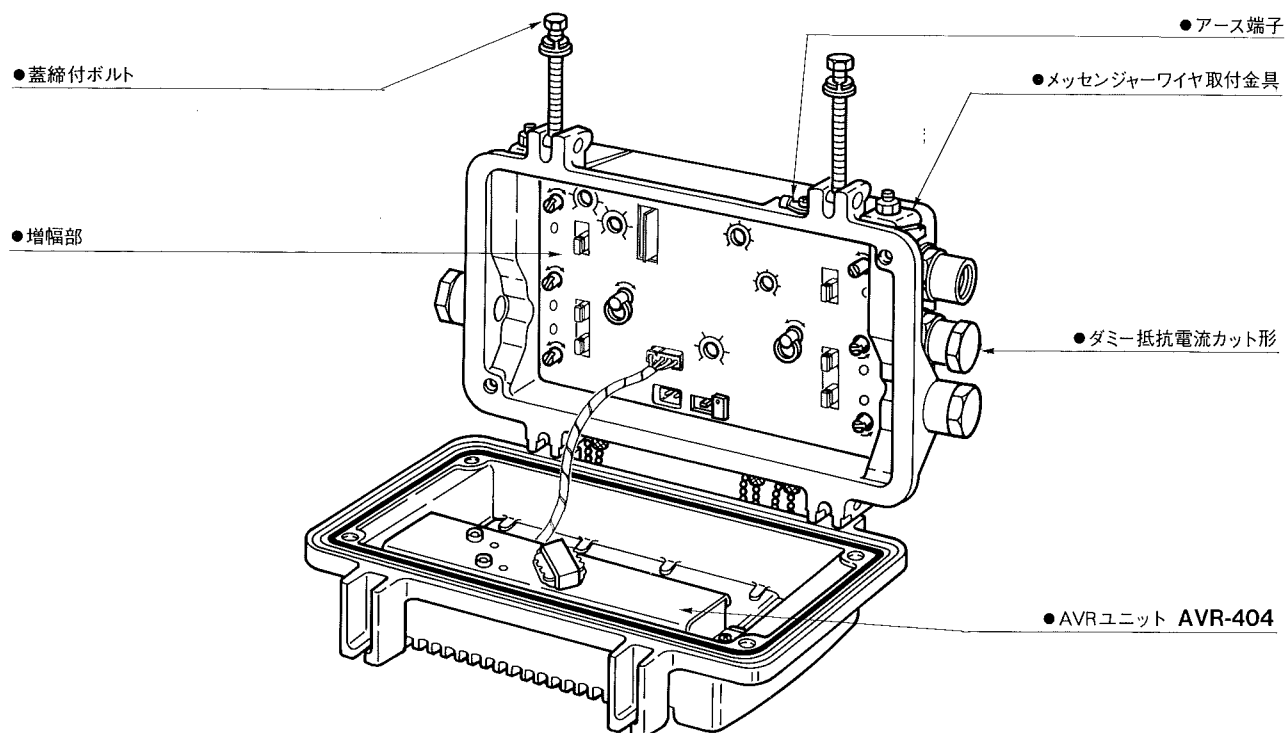
●各部の名称

〈TBA-3003,TBA-3003A〉

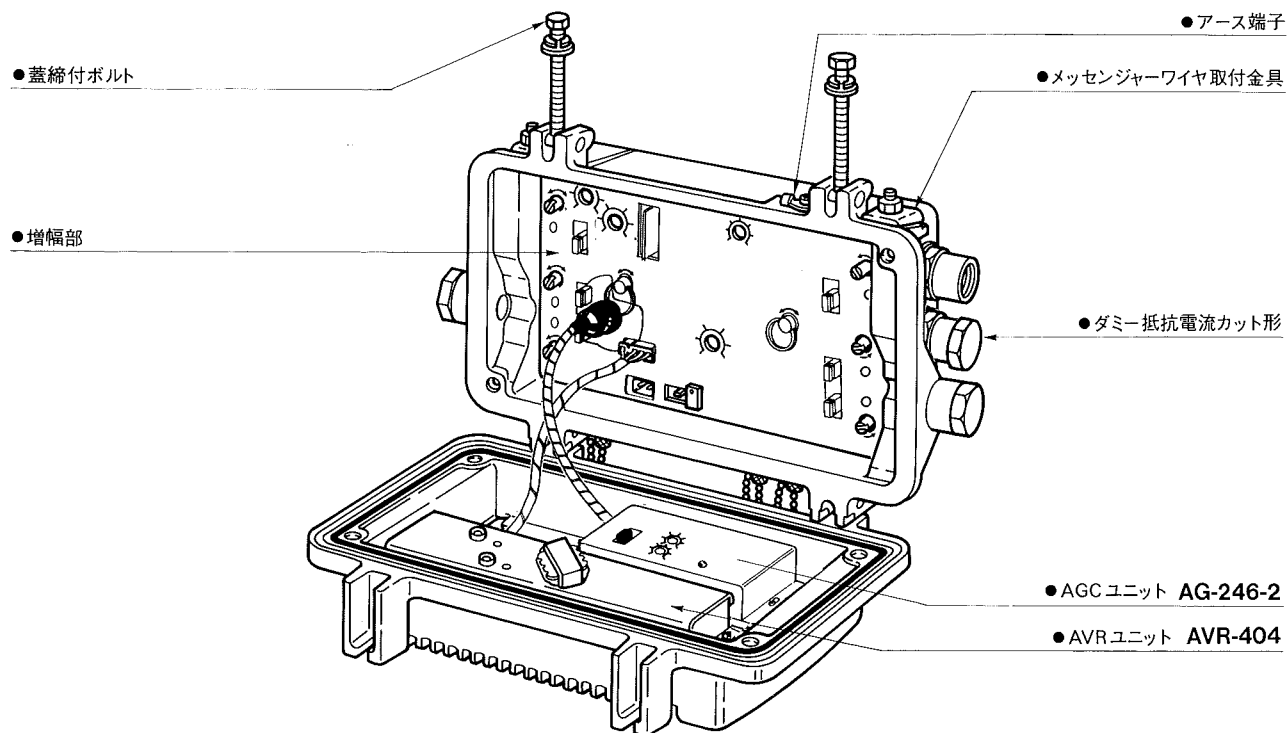


●各部の名称

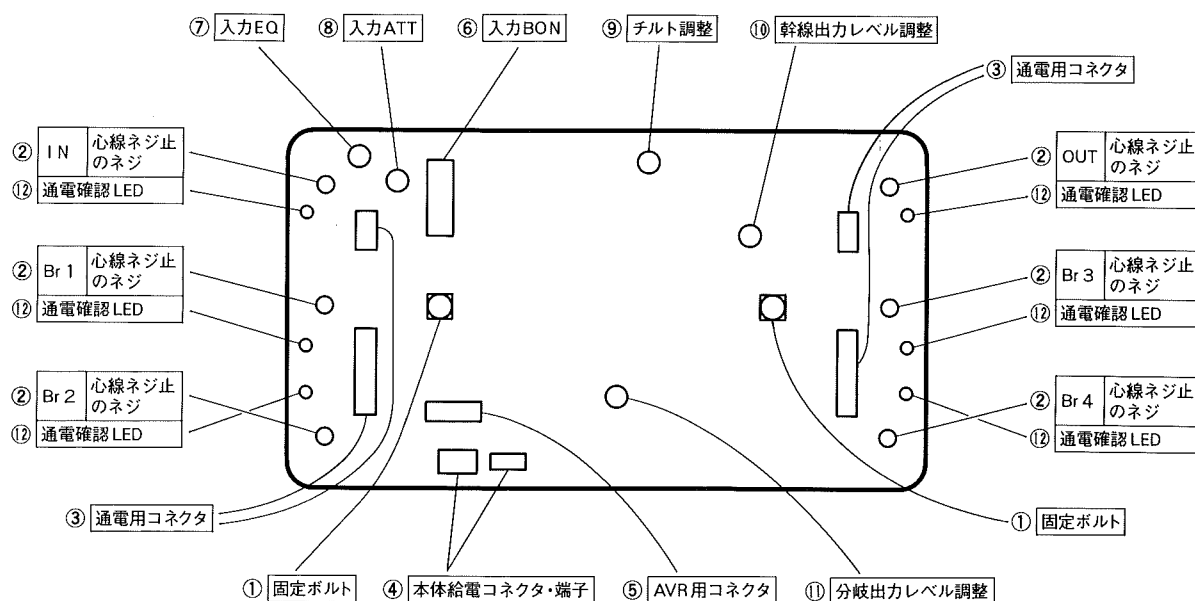
〈TBA-3003〉



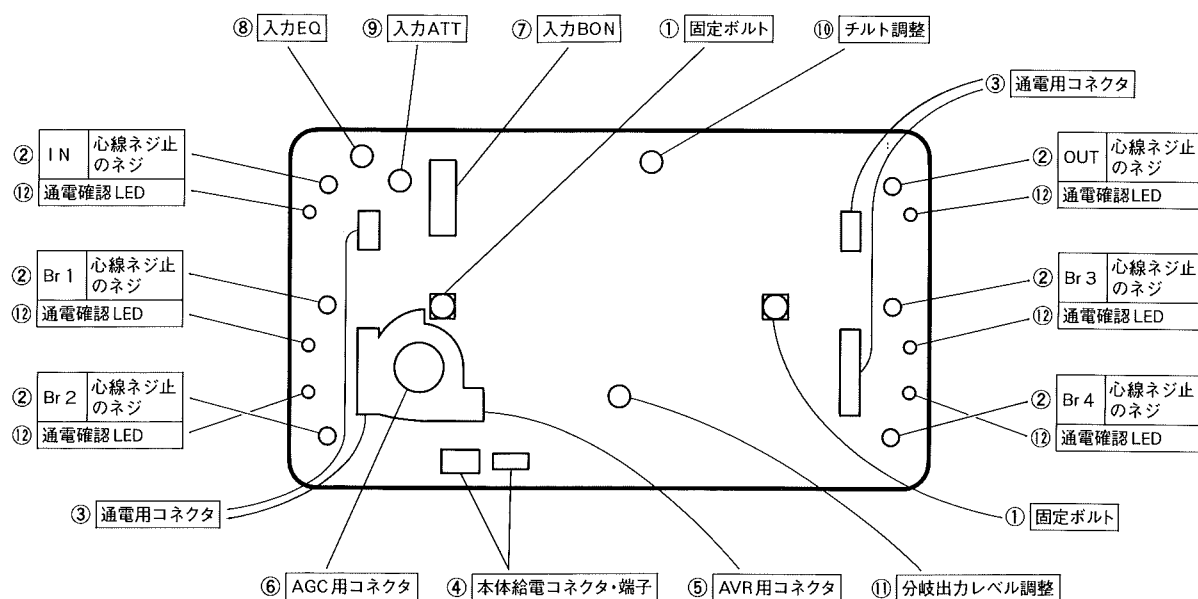
〈TBA-3003A〉



●付属品 FRアダプタ……………4コ



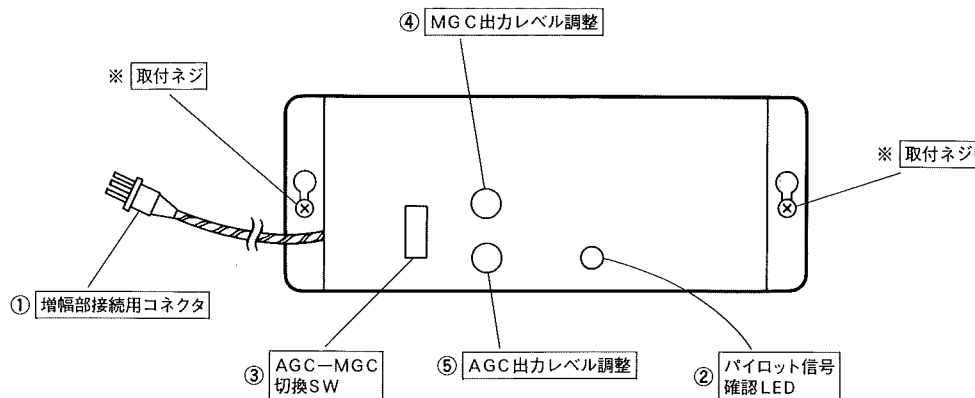
- ① 固定ボルト……………増幅部を取り出す場合、A V R用のコネクタをはずし、心線ネジ止のネジをゆるめてから、固定ボルトをゆるめ増幅部を引き上げてください。(セットする場合は逆の作業を行なってください。)
- ② 心線ネジ止のネジ……………各入出力端子の心線をネジ止します。(増幅部を取り出す時以外はさわらないでください。)
- ③ 通電用コネクタ……………各端子の通電が通電切換プラグの操作によりできます。
- ④ 本体給電コネクタ・端子……………本体給電する場合に使用します。
- ⑤ A V R用コネクタ……………A V Rユニットを接続します。
- ⑥ 入力B O N……………B O Nユニットを挿入します。(出荷時は工場出荷用ユニットが挿入されています。)
- ⑦ 入力E Q……………70MHzを固定とし、222MHzを0～-3dB連続可変できます。
- ⑧ 入力A T T……………70～250MHzを0～-10dB連続可変できます。
- ⑨ チルト調整……………222MHzを固定とし、90MHzの利得を±0.5dB可変できます。
- ⑩ 幹線出力レベル調整……………幹線出力の出力レベルを±3dB可変できます。
- ⑪ 分岐出力レベル調整……………分岐出力の出力レベルを0～-10dB可変できます。
- ⑫ 通電確認L E D……………各端子に通電されるとL E Dが点灯します。



- ① 固定用ボルト……………増幅部を取り出す場合、A V R・A G C用のコネクタをはずし、心線ネジ止のネジをゆるめてから、固定ボルトをゆるめ増幅部を引き上げてください。(セットする場合は逆の作業を行なってください。)
- ② 心線ネジ止のネジ……………各入出力端子の心線をネジ止します。(増幅部を取り出す時以外はさわらないでください。)
- ③ 通電用コネクタ……………各端子の通電が通電切換プラグの操作によりできます。
- ④ 本体給電コネクタ・端子……………本体給電する場合に使用します。
- ⑤ A V R用コネクタ……………A V Rユニットを接続します。
- ⑥ A G C用コネクタ……………A G Cユニットを接続します。
- ⑦ 入力B O N……………B O Nユニットを挿入します。(出荷時は工場出荷用ユニットが挿入されています。)
- ⑧ 入力E Q……………70MHzを固定とし、222MHzを0～3dB連続可変できます。
- ⑨ 入力A T T……………70～250MHzを0～10dB連続可変できます。
- ⑩ チルト調整……………222MHzを固定とし、90MHzの利得を±0.5dB可変できます。
- ⑪ 分岐出力レベル調整……………分岐出力の出力レベルを0～10dB可変できます。
- ⑫ 通電確認L E D……………各端子に通電されるとL E Dが点灯します。

● AGCユニット AG-246-2の説明〈TBA-3003A〉

〈AG-246-2〉

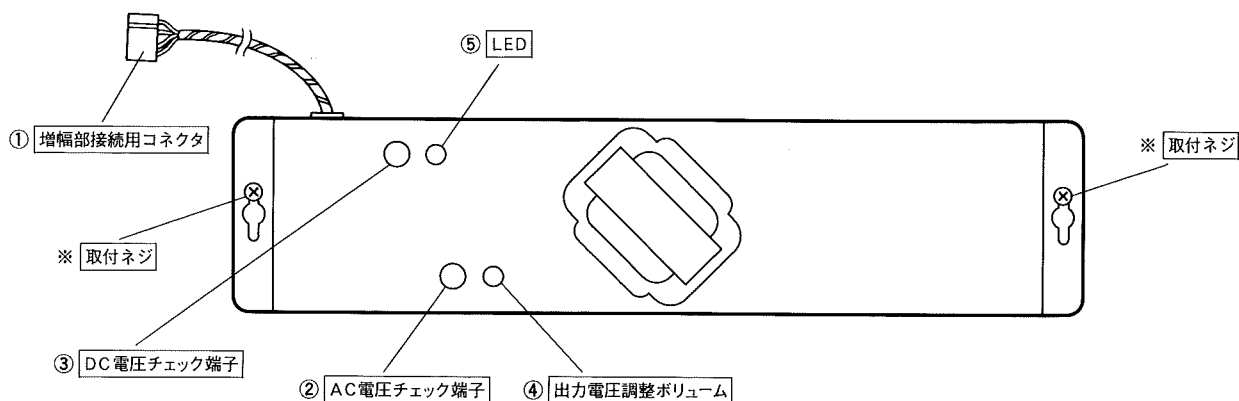


AG-246-2の交換方法

1. 増幅部接続用コネクタをはずす。
 2. 取付ネジ※をゆるめAGCユニットを下側にスライドさせる。
 3. セットをする場合は逆の作業を行なってください。
- ① 増幅部接続用コネクタ……………増幅部のAGC接続用コネクタと接続します。
- ② パイロット信号確認LED……………パイロット信号の入力レベルが標準入力レベルよりも約10dB以上減衰した場合点灯し、自動的にMGC動作へ切り換わります。
- ③ AGC-MGC切換SW……………AGC-MGCの選択ができます。
AGC動作の場合、パイロット信号の入力レベルにより自動的にMGC動作へ切り換わります。
- ④ MGC出力レベル調整……………AGC-MGC切換SWがMGCの時、このボリュームで出力レベルの調整ができます。
AGC-MGC切換SWがAGCの時でもパイロット信号確認LEDが点灯している時は、このボリュームで出力レベルを±3dB可変できます。
- ⑤ AGC出力レベル調整……………AGC-MGC切換SWがAGCで、パイロット信号確認LEDが消灯(AGC動作中)の時、このボリュームで出力レベルを±3dB可変できます。

● AVRユニット AVR-404の説明

〈AVR-404〉

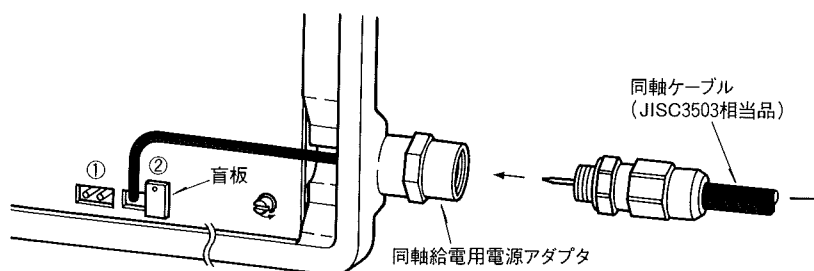


AVR-404の交換方法

1. 増幅部接続用コネクタをはずす。
 2. 取付ネジ※をゆるめAVRユニットを上側にスライドさせる。
 3. セットする場合は逆の作業を行なってください。
- ① 増幅部接続用コネクタ……………増幅部のAVR接続用コネクタと接続します。
- ② AC電圧チェック端子……………AC入力電圧の確認ができます。(AC20~30Vである事を確認してください。)
- ③ DC電圧チェック端子……………DC出力電圧の確認ができます。(DC20Vである事を確認してください。)
- ④ 出力電圧調整ボリューム……………このボリュームでDC出力電圧の調整ができます。
- ⑤ LED……………AC電圧を受電し、DC電圧を出力している場合に点灯します。

●本体給電、ケーブル給電、通電(電源パス)の方法

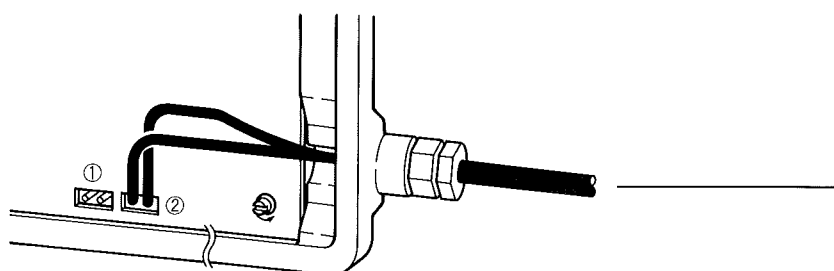
同軸ケーブルによる本体給電



- 同軸給電電源アダプタをダイカストケース本体の電源挿入口に取り付け、先端のコネクタを本体給電コネクタ①または、本体給電端子②のホット側(盲板のない方)に接続してください。このアダプタを取り付ける際、シリコングリスを塗付した上で締付トルクは1200 N・cm (約120 kgf・cm)で締め付けてください。

本体給電コネクタ①は3 A用、本体給電端子②は15 A用になっています。電源装置のコネクタ形状に合う方の本体給電コネクタ・端子をご使用ください。

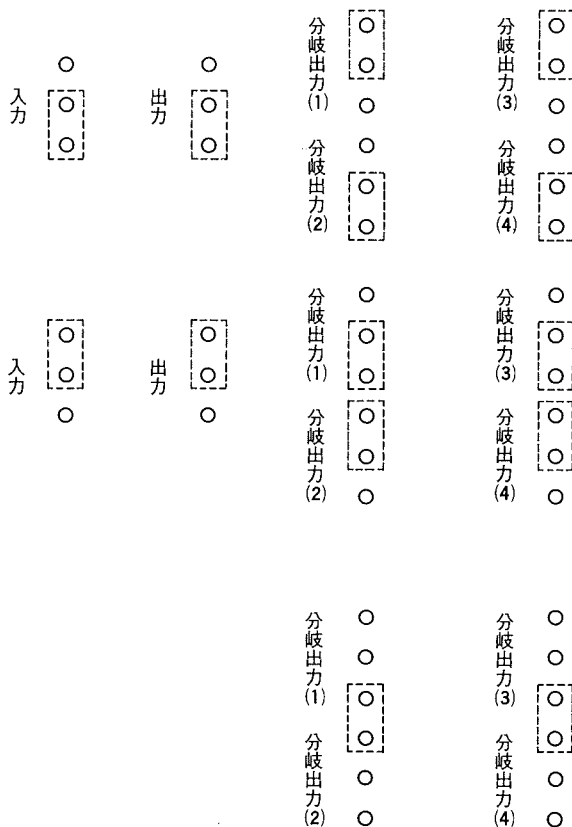
キャブタイヤケーブルによる本体給電



- 本体給電端子部の盲板をはずしてください。

各端子への給電・ケーブル給電・通電(電源パス)

- 通電用コネクタの通電切換プラグの操作で行ないます。



- 各端子には通電されません。

- 入力、出力、分岐出力(1)、分岐出力(2) 分岐出力(3)、分岐出力(4)端子に通電。

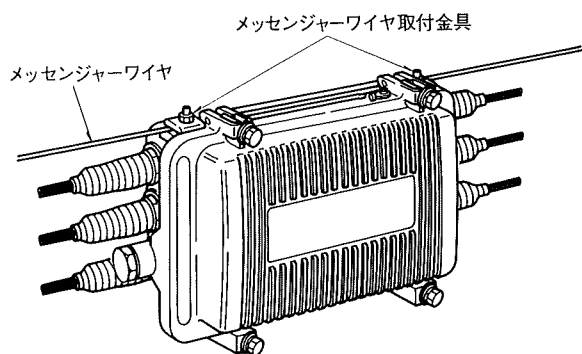
分岐出力(1)―分岐出力(2)間
分岐出力(3)―分岐出力(4)間 } の通電(電源パス)

④ 是通電切換プラグの位置を示します。

⑤ 通電(電源パス)は分岐出力(1)―分岐出力(2)間、分岐出力(3)―分岐出力(4)間のみ可能です。

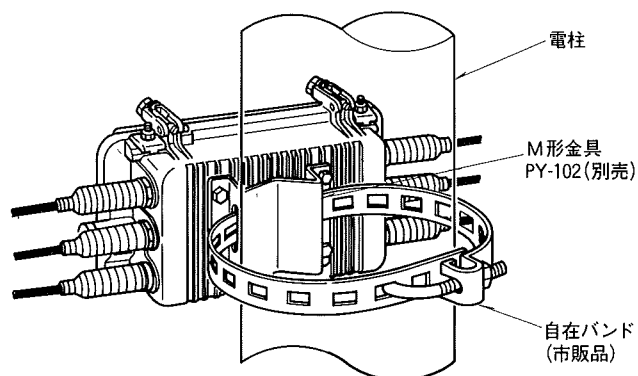
●取付方法

メッセンジャーワイヤへの取付



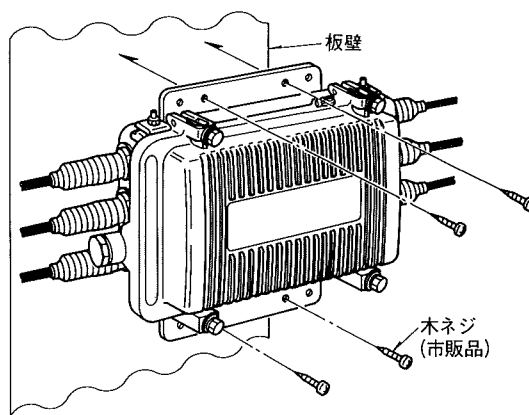
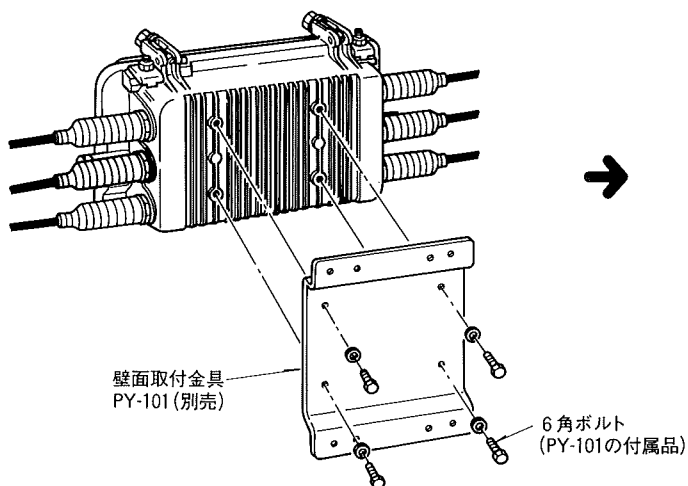
- 図のように2カ所のメッセンジャーワイヤ取付金具でしっかりとメッセンジャーワイヤ (14~38mm²) に取り付けてください。

電柱への取付



- 図のようにM形金具 PY-102 (別売) に自在バンド (市販品) を通し、電柱にしっかりと取り付けてください。
(M形金具は別売となっております。また自在バンドは市販のものをご使用ください。)

板壁面への取付



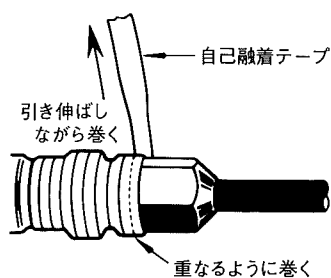
- 壁面取付金具 PY-101 (別売) を4本のボルトでしっかりと本体に取り付けてください。
つぎに、大形の木ネジ4本 (市販品) で図のように壁面に取り付けてください。

(M形金具・壁面取付金具は別売となっております。また木ネジは市販のものをご使用ください。)

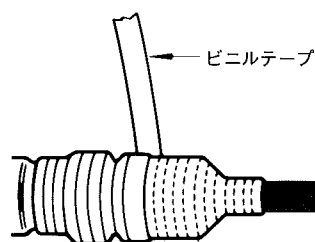
※増幅器は水平、垂直の傾きがないよう注意して取り付けてください。

また増幅器へのケーブルの接続はケーブル敷設後約1週間を経ってから行なってください。

●接栓の防水方法



- 指でよくおさえ、融着を促進させます。



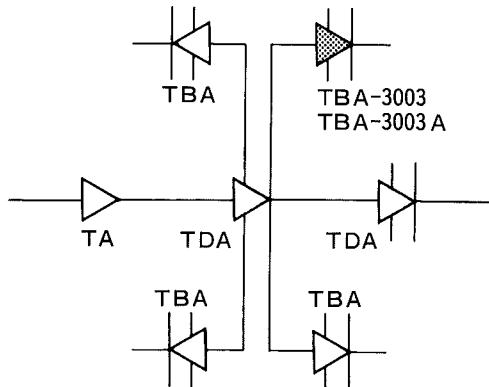
- ビニルテープを自己融着テープの上から巻き、自己融着テープ同様に指でよくおさえてください。

●F形接栓の場合も同様にテーピングしてください。

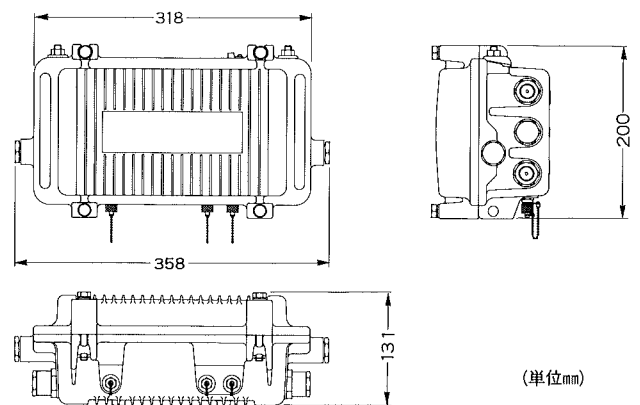
●取扱上の注意

- A C入力電圧及びD C出力電圧が規定値である事をテストで確認してください。
- 各端子の通電電流容量は5A以下となっていますから、必ずこれ以内で使用してください。
※本体給電端子はA C 60V 15A以下です。
- 増幅器本体を1.6φの銅線でアースしてください。
- 脱落防止のため蓋締付ボルトは十分に緩んだ後(約2回転後)は手で緩めてください。
- 蓋をされる場合は防水パッキンが曲がっていないことを確かめ、蓋締付けボルトで締め付けてください。また取り付けや調整の際、雨水や湿気が増幅器内部に入ったときは、水分をよく拭きとってから蓋をしてください。
※防水パッキンにはシリコングリス等を一切塗布しないでください。
※蓋締付トルクは1200N・cm(約120kg f・cm)で均一に締めてください。
- 使用しない電源挿入口は必ずシリコングリスを塗付したメクラ蓋でしっかりふさいでおいてください。メクラ蓋の締付トルクは1200N・cm(約120kg f・cm)で締めてください。
- 同軸給電をする場合は別売の同軸給電用電源アダプタP Y-109(3A用)、P Y-111(15A用)をご使用ください。締付トルクは1200N・cm(約120kg f・cm)で締めてください。
- 1台のアンプに2台の電源装置(P S)より本体給電および通電パスする場合は、同軸給電用パスアダプタ(別売)をご使用ください。
- フィッティングをF形に変換する場合は付属のF Rアダプタ(フィッティングF形座変換接栓)をご使用ください。

●システム使用例



●外形寸法図



●規格特性

周 波 数 帯 域 (MHz)		70～250	入 出 力 V S W R		1.5以下
標 準 利 得 (dB)	幹線	12.7/14.5/23.0/24.4	相 互 変 調 (dB)	幹線	－75以下
	分岐	25.7/27.5/36.0/37.4		分岐	－61以下
利 得 調 整 範 囲 (dB)	幹線	±3以上(ツイスト特性・222MHz値)	混 変 調 (dB) (8波)	幹線	－88以下
	分岐	0～－10連続		分岐	－60以下
標準出力レベル (dBμ)	幹線	86.9/87.8/92.0/92.7	ハ ム 変 調 (dB)		－75
	分岐	99.9/100.8/105.0/105.7	不 要 放 射 (dBμ/m)		34以下 (IEC法による)
利 得 安 定 度 (dB)	幹線	±0.5以内	耐 雷 性 (kV)		±24 (1.2/50μs)
	分岐	±1.0以内	使 用 温 度 範 囲 (℃)		－20～＋40
帯域内周波数特性 (dB)	幹線	±0.5以内	電 源 (V)		AC 20～30
	分岐	±1.0以内	消費電力 (VA)		23～28 (TBA-3003)
A G C 特 性 (dB) (TBA-3003A)		入力±5で出力±0.5以内			25～30 (TBA-3003A)
雑 音 指 数 (dB)	幹線	9 以下 (250MHz値)	接 栓 容 量 (A)		5以下
	分岐	10以下 (250MHz値)	質 量 (kg)		5.1 (TBA-3003) 5.4 (TBA-3003A)

※規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。
※標準利得・標準出力レベルは70MHz/90MHz/222MHz/250MHz値とする。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

・衛星システム推進部 TEL.(03)3341-0444代	・サテライトオフィス宇都宮 TEL.(028)659-1100代	・三重営業所 TEL.(059)228-1643代	・松山営業所 TEL.(089)925-3826代
・ケーブルテレビ推進部 TEL.(03)3341-4569代	・新潟営業所 TEL.(025)278-2166代	・岐阜営業所 TEL.(058)273-9710代	・広島支店 TEL.(082)237-5331代
・システム営業部 TEL.(03)3341-5281代	・茨城営業所 TEL.(0298)28-5341代	・金沢支店 TEL.(076)261-9988代	・サテライトオフィス防府 TEL.(0835)38-0609代
・東北支店 TEL.(022)243-2141代	・千葉営業所 TEL.(043)253-1121代	・富山営業所 TEL.(0764)22-7878代	・岡山営業所 TEL.(086)245-2948代
・サテライトオフィス盛岡 TEL.(019)636-1581	・横浜支店 TEL.(045)651-2557代	・大阪支店 TEL.(06)6334-6391代	・九州支店 TEL.(092)541-0183代
・サテライトオフィス郡山 TEL.(0243)21-7131	・厚木営業所 TEL.(0462)25-7761代	・サテライトオフィス大阪北 TEL.(06)6242-2451代	・サテライトオフィス宮崎 TEL.(0985)27-5818代
・札幌営業所 TEL.(011)822-1251代	・静岡統括営業所 TEL.(054)281-0141代	・京都営業所 TEL.(0722)78-5311代	・北九州営業所 TEL.(093)922-5558代
・サテライトオフィス旭川 TEL.(0166)34-7447代	・浜松営業所 TEL.(053)481-8885代	・奈良営業所 TEL.(075)321-4155代	・大分営業所 TEL.(097)558-7235代
・東京支店 TEL.(03)3354-8451代	・中部支店 TEL.(052)771-5106代	・神戸支店 TEL.(078)974-7100代	・熊本営業所 TEL.(096)325-0711代
・東京東営業所 TEL.(03)3633-1411代	・サテライトオフィス松本 TEL.(0263)27-7801代	・姫路営業所 TEL.(0792)61-1500代	・鹿児島営業所 TEL.(099)267-8211代
・多摩営業所 TEL.(0426)35-1341代	・豊橋営業所 TEL.(0532)32-8188代	・高松統括営業所 TEL.(087)868-1222代	・沖縄営業所 TEL.(098)868-3070代
・関東支店 TEL.(048)652-3311代			

DXアンテナ株式会社

(1999年3月現在)

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001代 東京支社/〒100-0022 東京都新宿区新宿2丁目11番4号 長崎第1ビル TEL.(093)8341-0441代